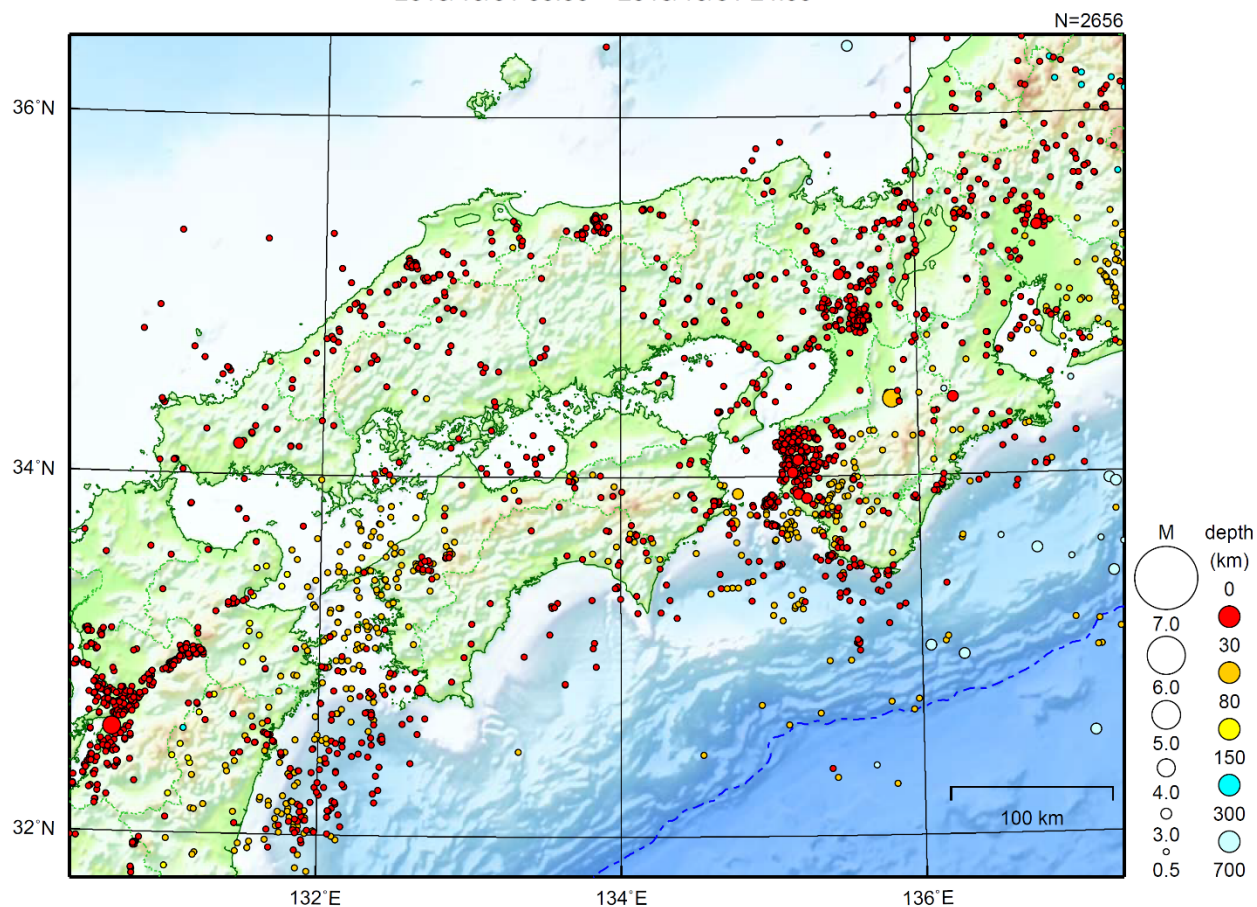


近畿・中国・四国地方

2018/10/01 00:00 ~ 2018/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

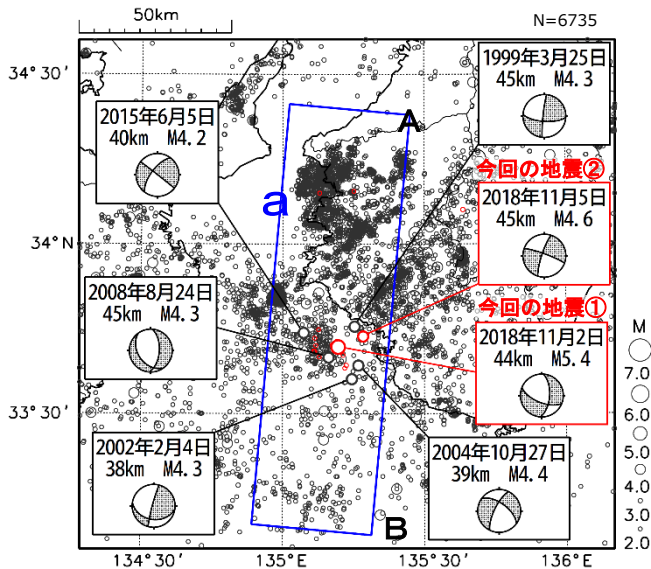
(上記期間外)

11月2日に紀伊水道で M5.4 の地震（最大震度 4）が発生した。その後、ほぼ同じ場所で、5日に M4.6 の地震（最大震度 3）が発生した。

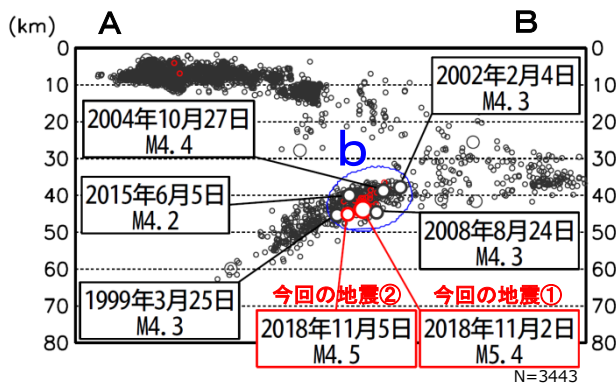
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

11月2日、5日 紀伊水道の地震

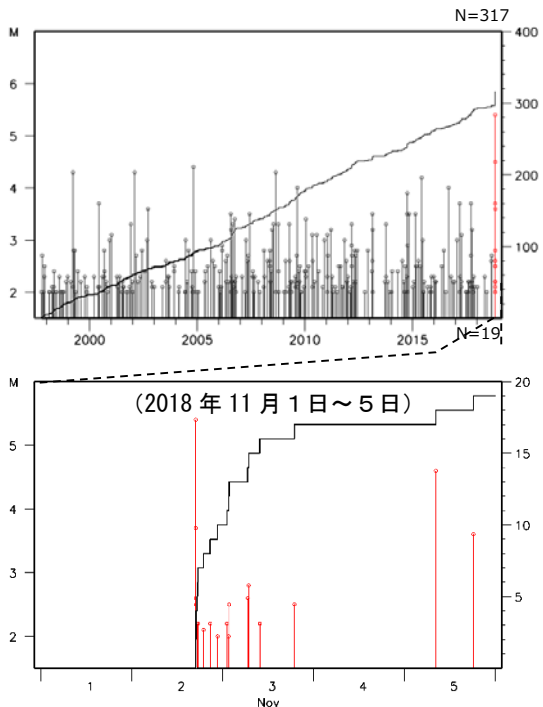
震央分布図
(1997年10月1日～2018年11月5日、
深さ0～80km、 $M \geq 2.0$)
2018年11月の地震を○で表示



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



領域 b 内のM-T図及び回数積算図

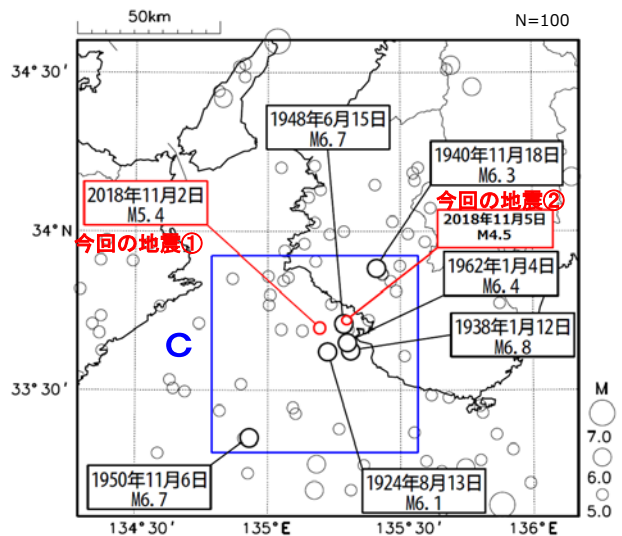


2018年11月2日16時53分に紀伊水道の深さ44kmでM5.4の地震 (最大震度4) が発生した (今回の地震①)。また11月5日08時19分にも深さ45kmでM4.6の地震 (最大震度3) が発生した (今回の地震②)。これらの地震の発震機構はいずれも東北東-西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M4.0以上の地震が時々発生しているが、M5.0以上の地震は今回が初めてであった。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち1948年6月15日に発生したM6.7の地震では、死者2人、負傷者33人、家屋倒壊60棟などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図
(1923年1月1日～2018年11月5日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2018年11月の地震を○で表示



領域 c 内のM-T図

